

嘉手納P3C部品落下

重さ4.5キロ アンテナ 米軍ことし7件目

米軍嘉手納基地を離陸した海軍第1偵察哨戒航空団のP3C哨戒機が20日、沖縄周辺海上で訓練飛行中に、重さ4・5キロのワイヤアンテナを落としていたことが22日分かった。沖縄防衛局は21日夜、県や周辺市町村に伝えた。米軍機

による部品落下事故はこれまで7件目、昨年から2年間で17件目と相次いでいる。事故原因の詳細を明かしておらず、県民の懸念は増し、反発は強まっている。

(2・27面に関連)

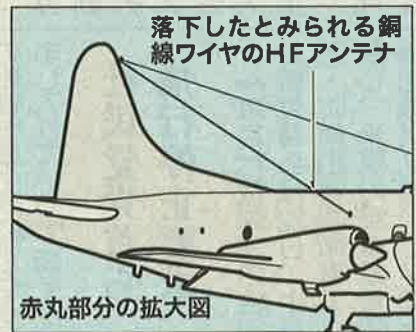
在沖海軍艦隊活動司令部

によると、落とした時間や場所は不明で、原因を調査している。けが人や被害の報告はない。

一方で、事故機の部品を交換し、整備を終えたほか、全ての同型機を検査したところ不具合がなかったことから、訓練を休止する予定



部品落下事故を起こした米海軍のP3C対潜哨戒機=2013年8月7日、米軍嘉手納基地



落下したとみられる銅線ワイヤのHFアンテナ

赤丸部分の拡大図

はないとしている。

落下したのは無線通信に使用するHFアンテナ。垂直尾翼から機体の中央に伸びる長さ数センチの銅製ワイヤで、プラスチック製カバーが付いている。機体の左右

に一つずつあり、右側のアンテナが離脱していた。有害物質を含んでいないと強調している。

P3Cは嘉手納基地の西側から離陸し、西側から着陸。離着陸の約5分を除くほとんどの時間を海上で飛行したという。20日午後5

時ごろ、飛行後の点検をしていた際、整備士がアンテナの離脱に気付いた。海軍は「アンテナは海に落ちたとみられる」と推測している。

海軍は原因を究明し、再発防止に力を入れるとともに「県民に不安を与え、残念に思う。航空機、艦船の運用には安全が最も重要と認識している。安全運用手順を確認する」とコメントしている。

沖縄防衛局や県は、米海軍に対し、再発防止、安全管理、事故原因究明と公表などを求めた。